



神谷コーポレーション(株)  
独自技術による自社ブランド  
“フルハイトドア”で躍進

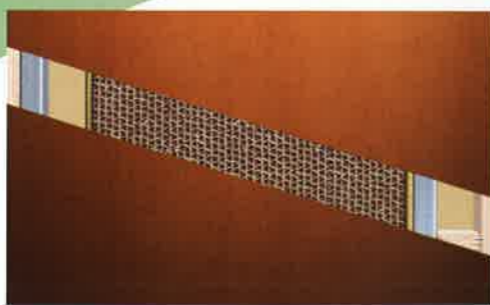


→「フルハイトドア」の角を削って仕上げる作業(伊勢原工場)

→環境試験室での衝撃剥離試験(振り子)(上)と照射加熱試験(下)。ここでは、他にねじれ剛性試験等も行っている(伊勢原工場。同社提供)



## さまざまな特許技術で「反り」を防止



↑「フルハイトドア」内部。スチールパイプと特殊なコア材で反りを防止する特許技術(同社提供)



↑梱包作業中の現場を訪れる神谷会長(伊勢原工場)



←同社が開発したアプリ「どこでもフルハイトドア」。スマホやタブレットを自宅のドアにかざすと、さまざまな「フルハイトドア」装着のイメージが体験できる。さらに、既往顧客が「フルハイトドア」を交換する場合は、4分の1〜3分の1に割引される「ドアアップサービス」も展開している(横浜ショールーム)



←同社所有の横浜神谷ビル。賃貸ビル事業も収益の柱にして経営の安定化を図る。8階に横浜ショールームがある



↑従来のドアと「フルハイトドア」との比較(横浜ショールーム)

## 自社ブランド立ち上げで自立



↑横浜ショールームの全景。中央は昨年4月発売した大型の「モンスター」。その右はペット用の「フルハイトカロ」

**企業データ**  
**神谷コーポレーション(株)**  
本社  
横浜市神奈川区六角橋5-8-1  
TEL 045-413-3511  
FAX 045-413-3527  
http://www.kamiya-yokohama.co.jp/  
創業 1942(昭和17)年2月  
設立 1948(昭和23)年4月  
資本金 1億円(グループ計2億4000万円)  
年商 93億円(2015年1月期見込み)  
従業員 180名(2014年11月)

年最初の自社ブランド「ハイトドア」、05年に「フルハイトドア」を発売して差別化を実現。現在、同社の自社商品はすべて「フルハイトドア」になっている。

一方、50年代から土地購入を進め、90年代からは不動産賃貸事業を本格化。現在、賃貸ビルをグループで計8棟所有し、「安定収入を別途確保することで、本業に専念して経営基盤の安定化を図っている」(神谷会長)

また、戦争犠牲者への思いから、52年から障害者雇用に積極的に取り組んできた。91年、伊勢原工場敷地内に神奈川県初の社会福祉法人エル・エム・ヴィ湘南福祉工場を設立。過去2度にわたり神奈川県知事賞を受賞している。

神谷会長は、大学に通いながら家業に従事し、87年の父逝去に伴い、2代目社長として経営の舵を取った。10年に社長職を譲ったが、「世の中のためになる商品をつくるという思いを社員全員が持つことが大事。新商品開発は社員任せ、利益も社員に還元している。今後は森林開発など地域や環境への貢献も考えたい」と神谷会長は思いを語る。

撮影 山口 隆 文 湯川 彦

**ド**アというのは、四方に枠があり、天井の高さより低いので上には下がり壁があるというのが、日本ではスタンダードだった。この常識を覆して人気を博しているのが、神谷コーポレーション(株)(横浜市、神谷光信会長)の「フルハイトドア」だ。

その名の通り、このドアは天井までと同じ高さがある。下がり壁がないぶん視界をさえぎるものがなく、空間的広がりを感じられる。通常の木製ドアは、高いと内外の気温と湿度の差で「反り」が生じるが、同社の独自技術で反りを防止する。つまり、スチールパイプを中に入れて剛性を持たせ、特殊なコア材で中の空気を循環させることで、温度と湿度を一定に保っている。同社はこの技術で特許を取得し、最大2m60cmの高さのものを販売している。ドアの枠を壁に埋め込んで見えなくする「ステルス枠」や建物の微妙な歪みに対する調整機能の高い「インセツト枠」の2種類があり、10以上の特許技術が盛り込まれている。

**神** 谷会長の父・一郎氏が1942年に神谷木工所を個人創業したのが同社の始まり。設立当初は軍需中心で、終戦後の48年に法人化した頃より米軍から受注した。その後は横浜の地の利を生かして船舶の内装を手がけた。70年代の造船不況後は住宅関連に軸足を移し、大手住宅メーカーの下請として内装用パネルを、80年代以降は木製ドアを中心に製造を行う。そのなかで、顧客ニーズの多様化に 대응べく、トヨタ方式の指導を受けて大量生産から少量多品種へと生産方式を大転換した。90年代、C1で現社名に変更した同社は自立を目指して自社ブランドの立ち上げを模索。2004